



THE NEWS TOKYO NODAI

東京農業大学

世田谷キャンパス 大学本部/大学院・応用生物科学部
地域環境科学部・国際食料情報学部・短期大学部
厚木キャンパス/大学院・農学部
オホーツクキャンパス/大学院・生物産業学部

編集/東京農業大学学長室
発行/東京農業大学出版会
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

農大アカデミアセンター 完成

世田谷キャンパス旧図書館跡地に「農大アカデミアセンター」が昨年11月末完成した。図書館、学生サービスおよび大学本部等の機能が入る本学の学術の中核拠点となる。

構造は、鉄骨造り(一階として親しまれている部鉄筋コンクリート・鉄骨鉄筋コンクリート)地下2階地上9階建て、延べ床面積は約1万7200㎡。大きなシンボルタワーに見立てた建物としている。



また、地下1階横井講堂のように、内装には

知のシンボル

新図書館4月7日開館

「図書館は大学の心臓であり、頭脳である」というよく知られる言葉がある。東京農業大学の新しい心臓・頭脳、すなわち新図書館が4月7日に世田谷キャンパスに開館するもの。

農大の森をイメージした「農大アカデミアセンター」エントランス

胸に秘めた未来への大きな夢、その夢の実現に向けて、これから学びの時間が始まります。東京農大は、未来に生きる皆さんに、将来の姿を実現する学びの時間と環境を提供します。



政府の元勲・榎本武揚公によって創設されました。榎本武揚公は、幕末においてオランダに留学し、先進ヨーロッパの科学技術、国際法を学び、最新の知識を持った科学者で、明治期一の国

人でした。また、初代学長の横井時敬先生は、本学の教育研究の理念を実学主義と定め、「稲のことは稲に聞け」「農業のことは農民に聞け」の言葉のように、机上になりがちな

国産の木材を中心とした木質系材料がふんだんに使用されている。本建物は、防災の拠点として制振構造の採用をはじめ、地震への備えや停電時の対応として、非常用発電設備を設置している。



「農大アカデミアセンター」の中核をなす新図書館は、このような課題にこたえるだけでなく、さらに進んで、新たな「知のシンボル」たろうとするもの。

満を持して始動!

食品安全健康学科

世田谷キャンパスに新設された「食品安全健康学科」が4月から始動。新設されたこの学科は、生命に直結する食の「安全・安心」と「機能と健康」を科学する「という新たな分野を構築することにある。

未来を共に!

学長 高野克己

です。地球のどこかで起きていることが自分や家族、友人、社会、地域、国にどのような影響を落とすか、自分の行動がこれらにどのような影響を与えるか。いずれも利害関係があり、解はひとつでなく、また難解です。皆さんが生きていく未来

123年前の榎本武揚公と横井時敬先生の想いを実現するため、東京農大は進化して行きます。共に目標に向かって歩みましょう。

2階は、60万冊収納可能な自動書庫、3階から7階までは書架・閲覧エリア、ブラウジングコーナー、レファレンスカウンター、学習室、PCコーナー、コミュニケーションルーム等々からなり、7階には大学史料室・貴重書室も置かれている。収納可能な蔵書数は全体で約100万冊。この新たな「知のシンボル」では、従来の図書室が担っていた。多面的に「食」を学ばせることの必要性から、栄養士養成施設でもあった栄養科学科食品栄養学専攻を発展的に改組した。本学科は、単に器が変わったということにとどまらず、教育・研究のうえで求められる人材を教務職員として多数迎え入れ、食における「安全と健康」をその中心に据えたユニークなカリキュラムを構築。さらに、最先端の研究のための最新鋭機器を充実させるなど、「食の安全性と機能性を総合的に理解し研究できる人材を育成する」ための準備を整えてきた。



新学科スタート! 食品安全健康学科!

新入生第一号を迎え、「食のエキスパート」養成の拠点として食品安全健康学科が食品関連業界からも注目されている。(食品安全健康学科長 阿部尚樹)

入学おめでとう！ 学生部長からのメッセージ

多様な価値観を大切に

田中谷キャンパス学生部長 金子 忠一



むととともに、キャンパスライフを通して、大学人として、社会人として、ステップアップされることを期待しています。

大学では、講義や実習・演習はもとより、研究室での活動、農友会の部活動やサークル活動をはじめ、さまざまな機会を通して多くのできごとを体験し、多くのことを実感するでしょう。また、先輩、後輩を含めて多くの仲間と出会い、共に苦しみ、楽しむことになるでしょう。ぜひとも、こ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。それぞれの期待と夢を抱いて東京農業大学の学生としての第一歩を歩みはじめたことと思います。これからの大学生活では、みなさんが志をもつて選ばれた専門的な学問の知識と技術についての学習と研究に取り組んで



厚木キャンパス学生部長 馬場 正

「頼っていいんだ」

うしたチャンスに積極的に挑んでいただき、より多くの経験値を深めてほしいと願っています。そうした中で、多様な価値観があることを大切に、自己と他者を共に尊重しつつ自立できる、そんな農大生に大きく成長されることを祈念しています。

富士五湖の一つ山中湖を水源とする相模川。厚木市に入ると南にまっすぐ下がって相模湾に注ぐ。その右岸は意外と起伏に富んでいて、平野部に市街地と農地が、それに続いてうっそうとした斜面が広がる。厚木キャンパスは、斜面を登りきった台地のでっぺんにある。入学おめでとう。

素敵なオホーツクライフを

オホーツクキャンパス学生部長 吉田 穂積



御入学おめでとうございませう。まだ、雪が残らない北の大地での生活に不安を抱いている人もいるのではないのでしょうか。でも、安心して下さい。オホーツクキャンパスの学生のほとんどは、道外から網走にやって来ます。初めは、いろいろと戸惑うと思いますが、友人や先輩との出会いで解消されることでしょう。さて、これから素敵な大学生活4年間を過ごすには、自立した人間を目指してください。そのためには、まず学内ルールはもちろん、社会のル

やり遂げた学生が、こんなことを言っていた。「1年間やってきて、人に頼っていいんだ」ということを学びました。一人で頑張り過ぎる前に、友達や周りの人に頼ってみよう。赤の他人だけれど、頼れる人をつくること、それは社会人になる第一歩である。4年後、皆さんが輝きを増して卒業することを心から願っている。

国際シンポジウム開催 コメ生産技術革新と需給見通しについて

(総合研究所)

確保上不可欠という認識を共有した。

研究生受け入れに 陸上幕僚長感謝状

平成25年度陸上幕僚長

感謝状贈呈式が防衛省市ヶ谷庁舎講堂で昨年11月16日に開催され、高野克己学長が出席し、表彰を受けた。生物応用化学科食料資源理化学研究室では、昭和39年以来、陸上自衛隊員を研究生として受け入れ、技術指導を行ってきた。食料資源を有効に活用し、おいしく作り出すというテーマのもと、学生とともに1年間の指導を受けた隊員研究生は、陸上自衛隊に戻った後、糧秣班(※1)や需品学校(※2)の教員などの任務に就き活躍している。今回の表彰は約半世紀にわたる実績が評価されたものであり、高野学長は「相互の知識や技術の発展向上のために今後も連携を継続していきたい」と話した。

農業と微生物



応用微生物科学部長 新村 洋一

農業と微生物

微生物と聞くと病原菌を連想する人が多いようですが、微生物は畑を通じて農業の大切なパートナーとなっている。畑の土を掘ると独特の臭いがある。これは微生物の一種の放線菌の臭いであり、畑の土を手のひらに盛ると、全地球人口に匹

敵する微生物が存在する。一般的な畑では1ha(1000m×1000m)あたりの土壌微生物の重量は約6tとも言われている。この膨大な量の微生物の働きとして思い

植物に有害な物質を分解無毒化する働き、植物との共生関係、さらにはある種のホルモンを生産して植物の成長を促進する微生物も存在する。植物に負の働きをする微生物も存在するが、この微生物たちを抑える有用微生物も土壌中に存在する。これらの微生物機能

植物に有害な物質を分解無毒化する働き、植物との共生関係、さらにはある種のホルモンを生産して植物の成長を促進する微生物も存在する。植物に負の働きをする微生物も存在するが、この微生物たちを抑える有用微生物も土壌中に存在する。これらの微生物機能

植物に有害な物質を分解無毒化する働き、植物との共生関係、さらにはある種のホルモンを生産して植物の成長を促進する微生物も存在する。植物に負の働きをする微生物も存在するが、この微生物たちを抑える有用微生物も土壌中に存在する。これらの微生物機能

「食と農」の博物館だより

東京農業大学「食と農」の博物館の生活を支えてきた「農」と「信

は、この4月6日に開館10周年を迎え、その開館10周年記念展示の第一弾として「農と新り」一田の馬、である。展示空間の設計と専門の神の馬1を、28日から開催している。この展示は、古の昔より日本人、初めての実験的な試みとなる。また、常設展示室では、昭和の頃までに関東近辺でも普通に見ることができた古民家の一部を再現したジオラマの展示を開始する。古民家の展示は、学芸員課程履修生の実習にも大いに役立つことはもちろんのこと、懐かしい故郷での四季折々の生活を再興した展示も採り入れていきたいと考えている。

「食と農」の博物館だより

東京農業大学「食と農」の博物館の生活を支えてきた「農」と「信

は、この4月6日に開館10周年を迎え、その開館10周年記念展示の第一弾として「農と新り」一田の馬、である。展示空間の設計と専門の神の馬1を、28日から開催している。この展示は、古の昔より日本人、初めての実験的な試みとなる。また、常設展示室では、昭和の頃までに関東近辺でも普通に見ることができた古民家の一部を再現したジオラマの展示を開始する。古民家の展示は、学芸員課程履修生の実習にも大いに役立つことはもちろんのこと、懐かしい故郷での四季折々の生活を再興した展示も採り入れていきたいと考えている。

※1 隊員用の食糧や非常食の調達、検査、研究、品質改良などを行うチームのこと。非常食は災害時などに一般用として配布されることもある。
※2 衣食住全般に係る教育訓練をする陸上自衛隊内学校のこと。

東京農大東日本支援プロジェクト

相馬市で第3回報告会

「復興への挑戦」が本に



谷秀清相馬市長、JAそうま組合長、相双農林事務所副所長が出席され、このプロジェクトに対する東京農大の熱意と関係者の期待がいかに大きいかを物語った。

東日本支援プロジェクトの第3回現地報告会が、2月22日に相馬市防災備蓄倉庫で1200人の被災農家、関係者を集めて開催された。

活躍する卒業生

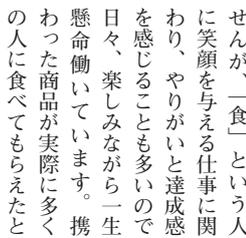
「食」で人に笑顔を

キユーピー株式会社広域営業本部外食営業部 CHANTANASOT NATINICHA

今年度、在日8年目となる私ですが、そのうちの6年間を東京農業大学の特別留学生として在学期間を過ごしました。



昨年3月の学位記授与式終了後



文化や生活習慣など育った環境の異なる私が、実際に日本人の中に混じり、一緒に働くことは言葉の壁をはじめ、いろいろと大変なことも当然あります。

参加者に強く印象づけた。さらに、今回の報告会では、被災地での東京農大の2年半の研究支援活動の成果を最大限に出版物、東京農業大学・相馬市編「東日本大震災からの真の農業復興への挑戦」東京農業大学と相馬市の連携(ぎょうせい)写真IIが農家、関係者の方々にお披露目され、東日本大震災から真の復興のあり方を国内・国外へ発信する第一歩を踏み出した。

地球の裏側から相馬に復興支援 ブラジルに移住した卒業生と東京農大に留学後母国に帰国した卒業生で組織する校友会ブラジル支部がある。現在200人ほどがブラジルで活躍し、本学に対する支援協力をいただいている。

受賞など 日本植物学会第74回大会「若手奨励賞」 深流環境における生態的種分化の多岐な解析に関する検証 食農連携推進学 環境経済学 農学工学 創発的連携とナレッジマネジメント 第15回応用型シンポジウム「優秀賞」

伊勢原農場 一般に公開 農学部伊勢原農場では、昨年12月7日、近隣の住民の皆々への農場公開を行ったII写真。朝10時に来場した参加者は、石川一憲副農場長の案内で、野菜温室、花卉温室、野菜圃場、果樹圃場などを見学した。

2013年プロ野球ドラフト

吉原正平選手 ロッテ、陽川尚将選手 阪神へ

NPBドラフト会議(昨年10月24日)で、吉原正平選手(投手・食料環境経済学科H24卒 現日本生命)が千葉ロッテマリーンズに4位で指名され、陽川尚将選手(内野手・国際バイオビジネス学科H26卒)が阪神タイガースに3位で指名された。両選手のコメントを紹介する。

強気の投球で

吉原 正平



(写真提供 千葉ロッテマリーンズ)

球界を代表する選手に

陽川 尚将



(写真提供 阪神タイガース)

この度、日本生命を経て、千葉ロッテマリーンズに入団しました。東京農大を卒業して3年目になりますが、大学時代から目標であったプロでは、今までお世話になった方々に感謝の気持ちで頑張ります。

高校時代から憧れていたプロの世界に入り、まずは一軍目指して頑張ります。

プロに入ることには目標ではなく、プロで日本球界を代表する選手になることが目標です。自分の特徴で

常磐寮完成

東京農業大学常磐寮が

昨年8月末日、完成した。収容人数196人の男子運動部寮で、千歳通りに面しており、校友会等があるグリーンアカデミー校舎や、本学の既存寮(桜丘・若草寮、青雲・育英寮)に隣接している。構造は、鉄筋コンクリート造り地上5階建て、延べ床面積は約30000㎡である。寮室は、4人



千歳通りに面した花東側外観

1部屋で、各々に机椅子、ベッド等の家具類とインターネット回線が完備されている。

共用部にはラウンジを設け、団体ごとの交流の場を提供。食堂は約100人収容可能で、1日3食提供可能な厨房を備えている。その他に、大浴場・シャワー室や駐

人にすすみたい学園祭

第122回収穫祭がMVP

第122回収穫祭が「今こそ魅せる農のちから」をテーマに昨年10月31日〜11月4日に開催され、農大生がそれぞれ持つ農の力を発揮し、来場者が10万人を突破するという大成功をおさめることができた。

その収穫祭が、第5回学園祭グランプリでMVPを受賞し、12月17日、(株)ぐるなび本社(東京都千代田区)で表彰式が行われたII写真

正代直也君 角界に農大魂で活躍を



優勝、平成25年の東日本体重別選手権大会無差別トゲッターとして、各大会出場して勝率は9割以上。農大相撲部のポイントゲッターとして、各大会

国際農業開発学4年正代直也が大相撲の世界へと飛び立った。身長181cm 体重150kgと恵まれた体格を生かし、農大相撲部が得意としているスピードと圧力を武器にした押しと寄り第89回全国学生相撲選手権大会(平成23年11月)で個人優勝(第89代学生横綱)。

その後もおおごることなく稽古に精進し、平成24

優勝、平成25年の東日本体重別選手権大会無差別トゲッターとして、各大会

出場して勝率は9割以上。農大相撲部のポイントゲッターとして、各大会

出せたと考える人も多くいるが、そうではない。毎日の稽古で自ら50番以



みな大好き、イチゴ!! ちょっとしたイチゴ博士になろう!!

皆さんがイチゴ狩りに行った時にでも、次のことを確認してみたいかがでしょうか? イチゴの花の形態について、萼は「やや丸みをおびた萼片」と「細長く尖った萼片」で形成されており、それぞれの萼片は交互に並んでいて同数である。つまり萼片の合計数は必ず偶数になる。また、花弁は「やや丸みをおびた萼片」の内側に1枚ずつ着生しているため、萼片の合計数は、花弁の倍になる。とこで、我々はイチゴのどの部分を食べているのでしょうか? 甘くてジューシーな赤い部分が「イチゴの果実」と思われがちであるが、イチゴの種子と思われがちなゴマ状の一粒一粒が「イチゴの(本当の)果実」である。つまり我々は、たくさんイチゴの果実を一口で食べてしまっているのだ。その「イチゴの(本当の)果実」は、果肉がみずみずしく発達しておらず、痩せてしまっていることから瘦果と言われ、その中には一つの種子が存在しているのだ。では、我々が主に食べているジューシーな部分の正体は何でしょうか? それは、雌しべを支える座布団の様な役割をしている花床が発達して多肉質になった、果托である。少しだけ、イチゴの物知りになれたでしょうか。(農学科助教 高畑 健)

輪場も設置している。本建物は環境を配慮し、自然採光・通風を積極的に取り入れたデザインであり、照明器具はLEDを中心に構成している。外装材には、空調負荷の低減や建物の耐久性維持の効果が期待できる外断熱工法を採用している。(施設課)



るサイト「レッツエンジョイ東京」が、おでかけスポットとしても楽しめる学園祭の活性化を目的に1都3県にある学園祭のナンバーワンを選んでいる。 MVPを受賞した理由は、来場者を楽しませる仕掛けにあふれ、経営農大通り商店街での収穫祭フェア実施など、地域と一体となって作り上げ人におすすめとなる学園祭として評価されたことなど。 来年度も地域と一体となって学園祭を作り上げていき、第6回学園祭グランプリでもMVP賞を獲得できるように頑張っていきたい。(農友会総務部 藤本賢人 日置神 床島里奈)